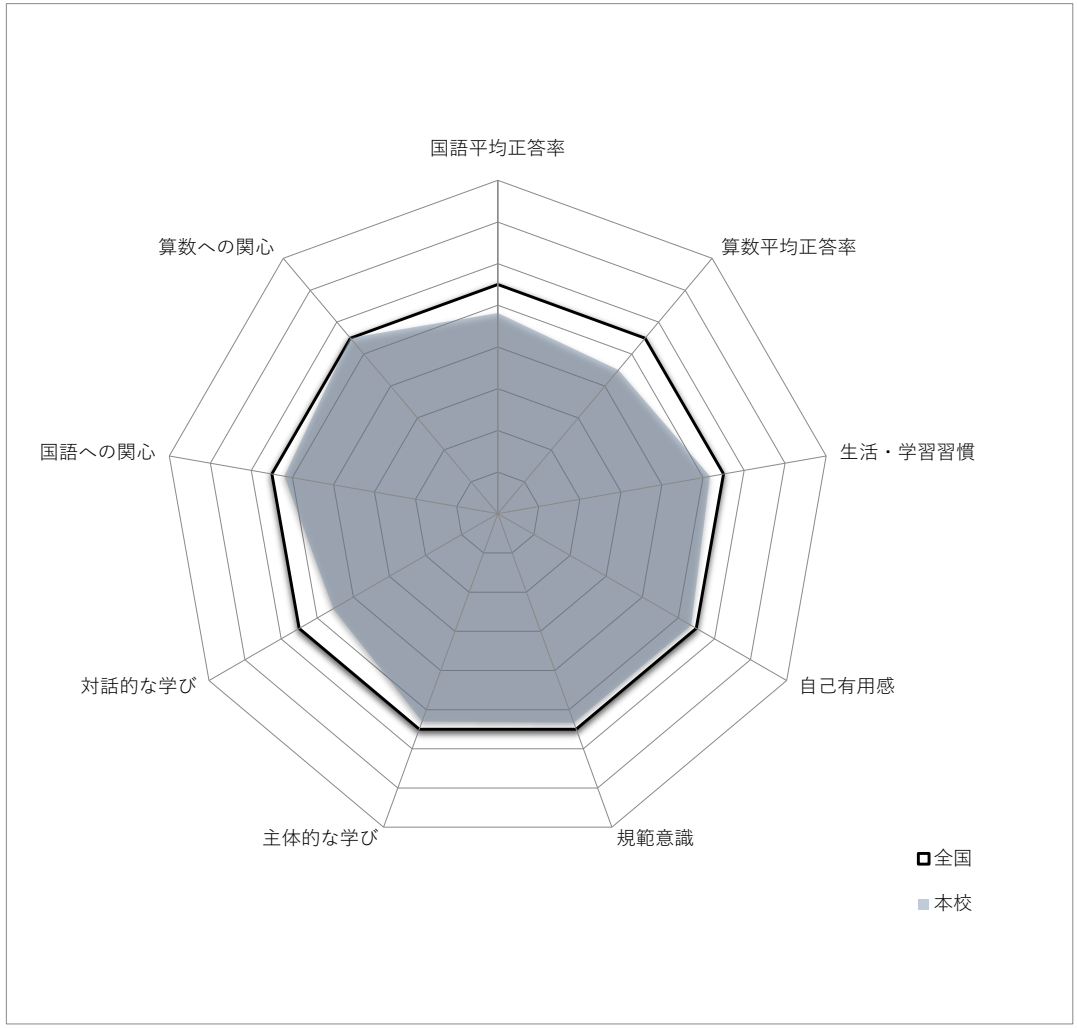
令和５年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）　　江戸川区立松本小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子



《現状把握》

「対話的な学び」の数値が低く、友達と話し合って学んでいる機会が少ないと感じている児童が多い。「主体的な学び」では、「自分から取り組めていない」と感じている児童が全国平均より多かった。「算数への関心」は、全国平均と同等であり、以前に比べ意欲的に取り組むようになってきている。「国語への関心」では、「国語が分からない」と感じている児童が全国平均より多かった。「生活・学習習慣」では、基本的な生活習慣に課題が見られた。
「自己有用感」では、自分のよさを実感できていない児童が見られた。
「平均正答率」は、国語、算数ともに全国平均より低く、課題を基に、改善が必要である。

《授業改善のポイント》

「松本授業スタンダード」を基に、授業改善に取り組む。「学び合い」に焦点を当てて、授業を組み立てる。同時に導入を工夫することで、児童が主体的に取り組めるようにする。国語では、「分かった」と思える場面を増やせるよう、身近な場面と関連付けたり、解決への見通しをもたせたりする。授業とは別に、暗唱やウソ日記といった日常の取り組みを通して、楽しみながら言語能力の向上も図る。算数では、児童一人一人の既習事項の定着度を把握し、個に合った指導につなげる。学習支援ツール「ミライシード」内の「ドリルパーク」を活用し、一人一人の学びの進度に合わせた学習を行う。授業とは別に、一人一人の課題別の朝学習を行い、基礎・基本の定着につなげる。

《チャートの特徴》

・「算数への関心」は、全国の肯定的回答合計値と同じである。それ以外の項目は、どれも全国平均を下回っている。
・全国平均を１としたときに、「算数の平均正答率」は０．８０、「対話的な学び」は０．８１である。他の項目より特に低い数値となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

・児童の頑張りを認めてもらう機会を増やせるよう、日々の連絡、保護者会、面談や手紙等で伝えていく。
・実態調査、家庭と連携した生活・学習キャンペーンの実施等により、課題を共有することで、改善につなげることができるようにする。